建設常任委員会報告

委員長　中　本　博　明

水道料金15%アップ！？ それでも１億２千万円の赤字

審査にあたり、質疑・答弁で主なものを報告いたします。

下水道関係では…

合併浄化槽の補助対象基数はとの問いに対して、５～７人槽で平成17年度、18年度実績の平均を基に計上しているとの回答。

浄化槽管理費用と下水道使用料を比較すると差が大きいとの問いに対して、５～６人家庭であればほぼ同等であるが、少人数なら下水道の方が安価であるとの回答。

下水道処理運営費は赤字であるが、将来的にはどのように考えているのかとの問いに対して、独立採算が原則であるので、これに向けて検討していくとの回答。

水道関係では…

使用料が平成19年度から15%引き上げられることにより５千万円程度増収となるが、まだ１億２千万円程度の赤字となるが、将来どのように考えているかとの問いに対して、水道は普及率が高く、公共性が高い。計画的に上げて収支をゼロにすべきかどうかについて、水価検討委員会で協議していきたいとの回答。

滞納者に対する対応はとの問いに、平成18年度に税務課に徴収対策班を新設して対応。平成19度末には効果が出てくるとの回答。

環境施設関係では…

最終処分場の完成後、現在の処分場はどうするのかとの問いに対して、基本的には旧処分場は廃止、瓦など安定化物の処分場は引続き利用を図りたいとの回答。

生活衛生関係では…

新しい住宅を建設する計画があるかとの問いに対して、当面は無いとの回答。

農林関係では…

有害鳥獣について、情島にサルが２～３頭生息している。早急に対応が必要ではないかとの問いに、地元自治会と猟友会の協力を得て、早期駆除を行うことにしているとの回答。

イノシシの被害状況等の問いに対して、生息数は増加の傾向。被害はタケノコ、サツマイモが主であるが、最近はミカンの被害報告がある。捕獲は100頭を超える見込み。被害防止対策は従来の防鳥ネットの整備に加え、イノシシ対策として電気柵の整備を行う。

商工観光関係では…

指定管理者制度導入について、広く啓蒙するよう要望があった。

建設関係では…

今年度で閉鎖予定の屋代残土処理場（原石山（げんせきやま））の受入予定土量及び歳入見込みはとの問いに対して、受入予定土量は6,000m³で、800万円を見込んでいるとの回答。

▲沖浦西地区浄化センター